
やさしい王さま

多之 良世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やさしい王さま

【Nコード】

N4082K

【作者名】

多之 良世

【あらすじ】

あるところに、やさしい王さまがいました。

ある日、肉を食べないことに決めました。

そしてまたある日、野菜も食べないことに決めました。

王様の最期はどうなったのか。

ここは、とある国のお城の中。

えらい王さまが言いました。

「わしは今朝からずっと考えていたのじゃが、これからは生き物を食べるのをやめよう。生き物の命をうばってはならぬ」

王さまの言葉に、周りの人たちはおどろきました。

「つまり、豚も、牛も、鳥も食べてはならない、とおっしゃるのですか？」

王さまが一番頼りにしている人がおどろきを隠せない顔で言いました。

「そうじゃ。実は、豚がころされる前にさけんでいる夢を見てから、とても食べようという気持ちにはならんのじゃ。生き物の命は大切にしないといかん」

王さまのがんこな性格をしていた部下たちは、もう何を言ってもむだだということをわかっていたので、何も言いませんでした。

例の一番頼りにされている部下は、確認のために最後の質問しました。これまでの経験から、一つの話に関しては2個の質問が限界でした。

「生き物の命をうばってはいけない、とおっしゃいましたが、生き物はすべてころしてはいけないのですか？」

「もちろんじゃ。虫一匹ころしてはならぬ」

「しかし、我が国には駆除しなければならぬ生き」

そこまで言ったところで、王さまは怒りました。

「とにかく国民たちに知らせるのじゃ！ころした者は死刑、もしくは終身刑じゃ！」

こうして、この国は生き物にやさしい国となったのでした。

半月の後、例の部下は報告しました。

「野生の動物たちが街で好き勝手に暴れています。何か対策をなさ
れてはいかがでしょうか？」

「殺すことだけは決してしてはならぬ。手をつけずにそのままそっ
としておくのじゃ」

「そんなことでは、いつか国民がおそわれてしまいます。せめてワ
ナをしかけるのは？」

「動物たちが可哀そうじゃ。国民たちに生き物を大切にすることが
嫌ならこの国を出ていけと伝えるのじゃ」

これ以上は何も言い返せませんでした。

それから半月のあと、王さまは肩に上ってきた蜘蛛を撫でながら言
いました。

「植物も呼吸はしている。植物も食べるのはやめよう」

この言葉にはさすがに我慢できませんでした。例の人が言いました。
「王さま、野菜すら食べられなくなっては生きることができません。
ますます国民がほかの国へ逃げてしまいます」

「かまわん。生き物の命をそまつにする者なぞ我が国にはいらな
いのじゃ。いや、この世にいてはいけないのじゃ」

「そうですか。それでは」

やさしい王さまは失礼な部下の行動に悩みながら眠りました。

おわり

（後書き）

感想・アドバイス頂けるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4082k/>

やさしい王さま

2011年10月6日19時35分発行